

展示室1c、d 寄贈記念 熊谷守一展

2020年9月8日(火) - 12月20日(日)

○印は10月25日まで、●印は10月27日から展示/□印は寄託作品

現在の岐阜県中津川市付知町に生まれた熊谷守一(1880-1977)は、郷土ゆかりの洋画家であると同時に、日本を代表する洋画家のひとりです。その作品の多くは、はがき4枚程度の小さな板の上に描かれています。目に留まった事象をよく観察し、一瞬の姿態を捉えた線にまでイメージを高めた赤い輪郭線が特徴的です。熊谷守一のもの見方、携わり方には、各々の土地と、そこで出会った人々との関わりが深く関与しています。守一自身も、家族との死別という経験を重ねながら、自分が見ていたもの、描くものとは何かを求め続けました。この企画では、幻の作品となっていた《横の裸》や《夜の裸》、長女・萬の病床から永遠の別れと家族の絆を描いた《萬の像》から《野菜》《百日草》など、近年ご遺族や生前から関わりの深い関係者からご寄贈いただいた作品を中心に、《ヤキバナカエリ》や褒状受賞作《蠟燭(ローソク)》など代表作品などとともに、熊谷守一の画業をたどります。

展示室1c 寄贈記念 熊谷守一展 第1室

作家名	生年-没年	作品名	制作年	技法、素材
くまがい ちりかず 熊谷 守一	1880-1977	スケッチ帳「一号」から	1901	水彩、紙
		● スケッチ帳「一号」から	1901	鉛筆、紙
		● スケッチ帳「一号」から	1901	水彩、紙
		スケッチ帳「三号」から 夕暗	1902	水彩、紙
		スケッチ帳「三号」から	1902	水彩、紙
		● スケッチ帳「四号」から	1903	水彩、紙
		○ 腰かけた女	1903	油彩、画布
		婦人半身像	1905	油彩、画布
		轢死	1908	油彩、画布
		ローソク 蠟燭	1909	油彩、画布
		○ 母の像	1910頃	油彩、画布
		赤城の雪	1916	油彩、画布
		あかんぼう 赤坊	1926頃	油彩、板
		松林	1928	油彩、画布
		牛	1930	油彩、板
		鳥	1930	油彩、板
		鳥	1930頃	油彩、板
		セキセイインコ	不詳	油彩、板
		赤うそ	不詳	油彩、板
		金太郎	1930	油彩、板
		裸婦	1930頃	油彩、画布
		裸婦	1930頃	油彩、板
		横の裸	1930	油彩、板
		裸婦	1933	油彩、板
		裸婦(炉辺の女)	1933	油彩、板
		● □ 伊豆大島	1935	油彩、板
		夜の裸	1936	油彩、板
		富士	1936	油彩、板
		○ 長良川	1936	油彩、板
		裸婦	1938	油彩、板
桑畑	1939	油彩、板		
溪流	1939	油彩、板		

		まん 萬の像	1950	油彩、板
		ヤキバナカエリ	1956	油彩、画布

展示室1d 寄贈記念 熊谷守一展 第2室

作家名	生年-没年	作品名	制作年	技法、素材
熊谷 守一	1880-1977	磯	不詳	油彩、板
		○ 裸婦	不詳	油彩、キャンヴァスボード
		不動明王	1944	紙本墨画淡彩
		ねこ	不詳	紙本墨画淡彩
		裸	不詳	紙本墨
		とうもろこし	不詳	紙本墨画淡彩
		ねずみ	不詳	紙本墨
		蝦蟇	不詳	紙本墨画淡彩
		枯木に鴉	不詳	紙本墨画淡彩
		観世音	不詳	紙本墨画淡彩
		● つゆくさ 鴨路草	不詳	紙本墨画淡彩
		● ししがしら	不詳	紙本墨画淡彩
		がま	1946-47頃	紙本墨画淡彩
		菩薩	1946-47頃	紙本墨画淡彩
		富嶽秋景	1946-47頃	紙本墨画淡彩
		バラ	不詳	油彩、板
		野菜	1949	油彩、板
		後向裸婦	1950	油彩、板
		水辺	1950-60	油彩、板
		○ 白い裸婦	1952	油彩、板
		御嶽	1954	油彩、板
		海	1958	油彩、キャンヴァスボード
		富士山	1958	紙本墨画淡彩
		馬	1958	紙本墨画淡彩
		仏画下絵	1959	油彩、板
		□ 自画像	1959	クレパス、紙
		馬	1957	油彩、板
		足を組む裸婦	1960-70	油彩、板
		百日草	1961	油彩、板
		松並木	1956	油彩、板
		○ 朝のはぢまり	1969	油彩、板
		● ゆうぼえ 夕映	1970	油彩、板
壺	1971	油彩、板		